わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより倒

おんばのほところ

恐怖スポット

池田の心に残る風景といえば五月山と猪名川というのが一般的です。しかし、人々が歩いて移動していた近世から近代、高度成長期までは「おんばのほところ」を知らない池田人はいなかったのではないでしょうか。

旧池田町の北側、綾羽町・城山町から巡礼道（勝尾寺から中山寺にかけて）を通って畑村に行くには、杉ケ谷川に沿った竹やぶ・樹木の繁った昼なお薄暗い「おんばのほところ」から接待池（現五月丘小学校）に出るのが近道でした。

ホーホーという恐ろしい声やザーというざわめきなどが聞こえ、上から砂が降ってくる、狐や狸にだまされた場所として当時の池田人が語り合った恐怖スポットでした。「おんば」とは何やら砂かけ婆をイメージしそうなものですが、市史の民俗調査では妖怪の話は聞けませんでした。

乳母（おんば）の懐（ほところ）ではなく…

ただ、全国の「乳母」とか「婆」「産」の地名を見てみますと、産湯井、姥ヶ淵があります。生活用水や鍛冶焼入れ水、死に水でも良さそうなものですが、なぜか「産」なのです。これらは、ウブ、バウバウ、すなわちブクブクと泉のわく音や淵（ふち）で水がたぎる音で、泉や淵にかかわった伝説なのです。姥石の伝説も石が成長する話でブクブクです。ウブ・ウバ↓御ウバ↓オンバです。日本語や地名は、漢字で考えてはいけません。「乳母」や「婆」「産」は後からの連想で解釈した当て字であり、ブクブクという音に注目すべきなのです。

「ほところ」はふところ＝谷の奥まった場所という意味です。落城の折に乳母が子どもを懐に隠して連れて逃げ、水を飲ませたのでこの水を飲むと乳が出るという伝説もあります。谷奥（懐）は地形的にいうと傾斜変換点であり、地質的には断層、地層の境界になっていることが多く、当然、水がわく可能性が高くなっています。乳母の懐とはロマンを感じさせる話ですが、要は地質路頭における傾斜変換地点の湧水個所＝ブクブクを意味しているにすぎません（味気ない言い方ですが）。

稲荷せんぎょ

この怖い場所を冬の深夜に巡る行事がありました。毎年、大寒の入りのころに行われる稲荷施行です。赤飯を炊いて大きな握りにして油揚げを載せた物二つを竹の皮に包んで、「せんぎょ、せんぎょ、稲荷せんぎょ」と言って、30人ほどであちこちの木の根元や洞穴に供えます。町内↓鎮山（現図書館）↓池田山峠茶屋（現五月丘停留所）↓接待池↓おんばのほところ↓城山町↓ひょうたん山（現ダイハツ池田工場）↓町内を回り帰宅したといわれています。

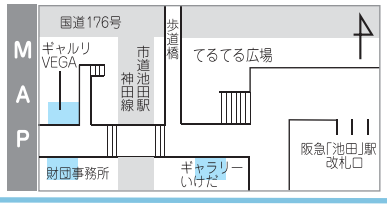
つまり、町はずれ、人の世界の境界を過ぎ、狐の世界（山）との境界を、不安の極致になりながら回るのです。中でも、バウバウという泉の音のするおんばのほところで、池田の人は、恐怖体験の極致に達します。町に戻って、お互い「実は」と恐ろしい体験を語り合っていました。「おんばのほところ」の恐怖体験談こそ池田人の心の原風景でした（『新修池田市史』第5巻参照）。

今もうっそうと茂る「おんばのほところ」付近（左の建物は五月山児童文化センター）

市史編纂委員会委員長・森栗茂一

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●KOTORI KEINO Exhibition	6/2(水)～7(月)
●～「モノ」と物のあいだ～　西村滋展	6/9(水)～14(月)
●高村喜美子作品展	6/16(水)～21(月)
●安田勝彦水彩展	6/23(水)～28(月)
●新田勝個展〈思いつくままに〉	6/30(水)～7/5(月)

【ギャルリVEGA】

●大阪空港カルチャースクール・箕面駅前スクール第7回合同展	6/2(水)～7(月)
●ザ・スペース小品展	6/9(水)～14(月)
●「木の家具展」（近藤雄士）	6/16(水)～21(月)
●夢工房半蔵作品展	6/16(水)～21(月)
●「周恩来と日本」写真展（池田市日本中国友好協会）	6/23(水)～28(月)
●池田焼佳生窯作陶展（西野佳彦）	6/30(水)～7/5(月)
●廃材家具とモダン焼（永島庸・力也・麻夷）	6/30(水)～7/5(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂だより㊥

昭和初期の池田

市民による町並み復元図

昔の池田の町並みの様子は、元禄10年（1697）と延享3年（1746）の「池田村絵図」に詳しく描かれています（『新修池田市史』第2巻）。

一方で、昭和初期の町並みを復元した『池田町昭和初期の町並み（復元図）』（平成7年作成）も貴重な町絵図です。江戸時代の名残があり、現代につながるこの町並み復元図は、「池田の町並み復元グループ」という市民による労作で、市民が個々の記憶をたどり市民のために、手弁当で編纂した一級文化財です。

ぶらぶら行くと

例えば、今の市役所の場所には増本病院と技芸女学校があり、池田小学校西側を北上すれば、突き当たりが池田町役場です。その裏手、現阪急学園池田文庫と逸翁美術館辺りが、師範附属小学校と書いてあります。

役場の南東にオイチニー薬局があります。オイチニーとは池田近郊では日露戦争当時の軍服を着て、オイチニーオイチニー（1、2）との掛け声で、薬の訪問販売をしていた業者をそう呼んでいたそうです。その町方常設店であったと思われます。

オイチニー薬局の2軒南側、桜井屋駄菓子店の交差点で右にまがり、法園寺に向かう斜め道が牛追坂で、今もその雰囲気が残っています。牛追坂を上がると帝国亭があり、その右手には、今もまんじゅう製造販売されている店が書かれてあります。御所風の花びら餅が名物で、茶道では今も人気があり、昭和初期から作られていました。

さらに坂を登り、右手には小林一三の文字が見えます。阪急電鉄の創設者の居宅は池田のここにありました。その三男、後の阪急電鉄社長小林米三の居宅も書かれています。その東側が池田師範学校（現池田中学校）です。

付属小学校
校庭（上）
池田師範付属小学校
校庭（下）
池田町役場
中村
三木
前田書店
森
料亭
寺
田辺
文具店
市民会館
法園寺
小林橋
桜井屋
オイチニー薬局
藤田
藤本
大工
田辺
平田
佐藤
北村
中村
工務店
桜井
中村
中村
藤本
長尾かしわや
小田
小型動産
中村
中村
中村

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより典

新たな旧石器の発見

新しい遺物の出土や遺跡の発見が、毎日のようにテレビや新聞をにぎわせています。私が担当した『新修池田市史』第1巻の旧石器・縄文時代に関する内容では、相谷熊原遺跡（滋賀県東近江市）で日本最古級の土偶が出土したという報道は皆さんの記憶に新しいところでしょう。『市史』第1巻も、平成9年の刊行時点での考古学の最新成果を盛り込んだ記述となっていますが、その後15年近くの間に判明した旧石器時代の池田市域に関連する新しい事柄があります。2回にわたり、それらについて述べたいと思います。

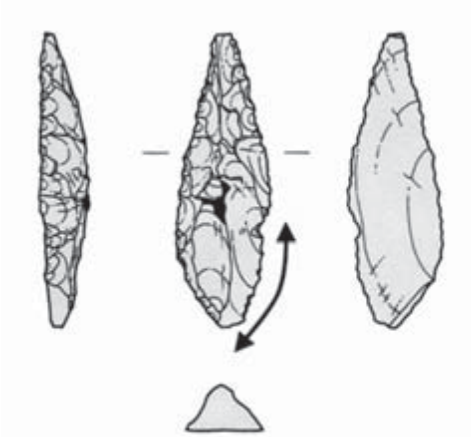
宇保遺跡の調査

市史刊行後に池田市内でも大変重要な発見がありました。市立池田病院前から国道176号の交差点を通り、南に向かって両側4車線の都市計画道路神田池田線が延びています。平成15年、その工事に伴う大阪府教育委員会の事前調査でその遺跡は見つかりました。

遺跡名は町名から宇保遺跡と呼ばれています。調査場所は池田市消防本部南側の交差点と宇保町交差点の間の西側道路下部分に当たります。上の地層からは近世や中世の溝などが、その下の谷状遺構からは縄文時代晩期の土器も出土しました。

さらにその下の黄色粘土という地層に掘られた土坑が見つかり、その中の土から旧石器時代のナイフ形石器（左図）が出土しました。考古学では墓や柱穴など用途がはっきりと分かる遺構以外の用途が断定できない地面に掘られた穴を総称して土坑と呼んでいます。調査担当者はこの土坑は旧石器時代に掘られたもので、黄色粘土層の上面が同時代の生活面だと考えています。

左図のナイフ形石器は大阪・奈良府県境の二上山産出のサヌカイト（安山岩の一種）という石材を用いています。左図は上下が逆に図化されていて、矢印の部分が刃として使用されていました。



『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』7　2004年より

宇保遺跡発見の意義

市史で述べたように、市内でもこれまで宮の前遺跡や伊居太神社参道遺跡で旧石器時代の石器が採集されています。しかし、これらは狩りなどでやってきた旧石器時代人が落とした、つまり他所から持ち込まれた可能性も考えられ、当時の人がそこで確実に生活していた証拠とはなりません。しかし、宇保遺跡の事例は旧石器時代人が掘ったと考えられる土坑が検出されたことから、池田市内で初めて旧石器時代人が確実に生活していたことが確認されたことは大変重要だといえます。

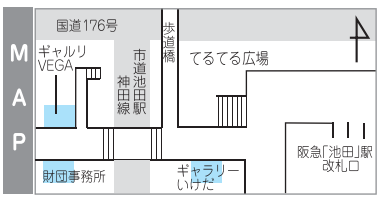
宇保遺跡の場合もそうですが、古くに開発が進んで、宅地や耕作地となっているところには、地下の遺跡が確認されないままの所がたくさんあります。今後、市の南半部でこの黄色粘土層と同じ地層が広がると推定される地域では工事の際に細心の注意を払えば、さらに多くの旧石器時代や縄文時代の遺跡が確認される可能性が高いでしょう。

（雲雀丘学園中・高等学校教諭・大下明）

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

※『新修池田市史』好評発売中。

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●奥畑司油彩展	～8/2(月)
●前田勘治個展「紀伊田辺を描く」	8/4(水)～9(月)
●野本理隆展	8/11(水)～16(月)
●祐紀油彩画展	8/18(水)～23(月)
●野村よしお個展～絵とバルーン展～	8/25(水)～8/30(月)

【ギャルリVEGA】

●本荘正彦花いろの木版画展	～8/2(月)
●セブン・イレブン	8/4(水)～9(月)
●いつか・花ひらく？作品展（山田いつか）	8/4(水)～9(月)
●櫻井房子「ほのぼの絵手紙と江野敦子和布小もの展」	8/11(水)～16(月)
●岡田元史日本画展	8/18(水)～23(月)
●黄嘴会ミニチュア展	8/25(水)～8/30(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより倏

池田の町と人力車

人力車の登場

明治の文明開化。乗り物でいえば何でしょうね。まあ、何てったって陸蒸気（おかじょうき）こと汽車が第一等でしょう。大勢乗れるし、それにあのスピード。音だってすごい。たまげたもんです。駕籠（かご）なんてもう目じゃありませんよ。「汽笛一声新橋を、はや我が汽車は離れたり」てなもんですね。関西でも明治10年（1877）2月には神戸―大阪―京都が鉄道線路でつながって、明治天皇が開業式に出席したそうです。

本町通りを行き交う人力車（大正13年ころ）

ところで便利といえば、人力車もまたやっぱり文明開化です。明治10年ごろまでには、大阪から京都、大津、それに和歌山までだって毎日通うようになってたんですから。住吉さん（住吉大社）なんか、そこに通う車が毎日列を連ねていました。車夫の中には道頓堀の戎橋から、8キロぐらいもあるその距離を、なんと一日何度も客を乗せて往復したっていわれます。人力車も人の距離感を変え、当時の人びとを行動的にし、活発にしたのですね。

池田の文明開化

それでは、池田の町では人力車はどうだったんでしょうか。知りたいのはここですよね。ところが、記録が今のところ見つかってないんです。ただ、明治12年ごろ、池田の町に隣接する当時第十大区第二小区の村々で、人力車の所有状況を書き上げた記録があるんです。この小区には池田市域になっている村々の状況も示されています。東市場村では二人乗りが2台、井口堂村では二人乗りが4台と一人乗りが1台、野村と中之島村では二人乗りが1台ずつ、石橋村では一人乗りが1台、今在家村では一人乗りが2台といった具合です。この記録には当時第二小区きっての町場であった岡町を抱えた桜塚村（現豊中市）の状況について、二人乗りが10台、一人乗りが8台と書いてあります。

ここから推測すると、池田の町ではもっとたくさんの人力車があったとみていいのではないでしょうか。要するに池田の町の人、あるいはその周辺の人も人力車を利用するようになっていたこと、つまり文明開化を経験し始めていたことが分かるのですね（『新修池田市史』第3巻）。

大阪から池田まで

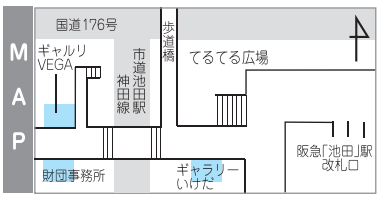
しかし、池田と人力車の関係を語るとすれば、大阪の人士がそれを使って池田に来ることの方が目についたのかもしれません。知事も何回か池田に来ていますが、馬で来たか、人力車を利用して来たか。どっちもあったのではないでしょうか。

ところで、明治12年7月23日付『大阪日報』（当時大阪で一番権威があった新聞）には、池田の料亭「めん茂」が「脚気（かっけ）病転地療養所」を営むことになったという広告が載せられています。「わたくし宅は池田第一高燥の地、かつ四方見晴らし絶景にござ候。…おのおの様方右の病症にござ候はば、早々御来車願いあげ奉り候」と書いてあるんです。大阪の人に人力車でお越しくださいと言っているのですね。池田もまた大阪から近くなったというべきでしょう。

（市史編纂委員会副委員長・小田康徳）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●汪洋洋画展	9/1(水)～6(月)
●庫本則子油彩画展	9/8(水)～13(月)
●白井武志水彩画展	9/15(水)～20(祝)
●猿渡士郎個展	9/22(水)～27(月)
●100人の仲間たち・コラージュ（舟津喬子）	9/29(水)～10/4(月)

【ギャルリVEGA】

●第10回グループ“翔”展	9/1(水)～6(月)
●第8回KO絵画研究会・櫻楓美術研究会合同作品展	9/8(水)～13(月)
●足立勇古稀記念デッサン画・油彩画展	9/15(水)～20(祝)
●夢遊展（森本勲）	9/22(水)～27(月)
●朝日カルチャーセンター川西第7回ボタニカルアート展	9/22(水)～27(月)
●内田弘慈アンコールワット拓本展	9/29(水)～10/4(月)
●廃材家具とモダン焼（永島庸・力也・麻夷）	9/29(水)～10/4(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより㊧

解明進む 北摂の旧石器文化

遺跡分布の拡大

8月号で宇保遺跡を紹介しましたが、新修市史刊行後に池田市周辺でも新たに旧石器時代の村の姿を垣間見ることができる確実な生活跡が見つかりました。北摂地域では市史で述べたように1980年代までに確実な生活の痕跡が確認された旧石器時代遺跡は、高槻市域のみに分布していました。その後、吹田市域で吉志部遺跡が調査され、調理の跡とされる礫群や石器製作の痕跡が確認されました。

北摂の旧石器出土遺跡

粟生間谷遺跡の調査

1990年代後半には箕面市東部で国際公園文化都市の開発に伴って粟生間谷遺跡が確認され、宇保遺跡と前後するナイフ形石器を使用した集落跡が見つかりました。1806点もの石器が出土しましたが、遺跡内に均等に散らばるのではなく、八つのブロック（石片のまとまり）がみられました。出土した石器は割られた石片を元通りにくっつけていく「接合」という方法によって、石の割り方を確認するとともに、同じ原石（母岩）からはがされたかけらやそれらから作られた石器の散らばり方によって、遺跡内での人の行動を探るためのデータとして用います。各ブロックの中では多くの接合関係が見られ、活発な石器製作の様子が復元されました。

また、ここに暮らした旧石器人は、石器の素材として宇保遺跡と同じ二上山産のサヌカイトを主に使用しながら、丹波地方産の可能性があるチャートも一定数用いており、我々が想像するよりも遠くの地域とも交流していた様子がうかがえます。さらに、この遺跡では旧石器時代の集落跡だけではなく、縄文時代でも複数時期の土器が出土し、この場所が生活の場として、1万年以上にわたって繰り返し利用されていたことが分かりました。

粟生間谷遺跡のナイフ形石器…サヌカイト製（左）、チャート製（右）『粟生間谷遺跡』（財）大阪府文化財センター2003より）

新遺跡発見への期待

池田市の周辺ではこのほかに伊丹市域でも旧石器の出土が近年初めて確認されました。今後、池田市域でも粟生間谷遺跡のような豊富な内容をもった旧石器時代の遺跡が調査され、猪名川流域の旧石器時代人の生活復元が進むことが期待されます。

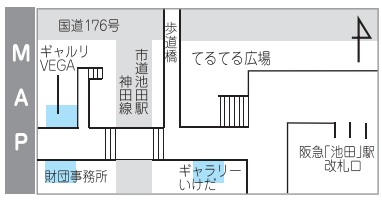
（雲雀丘学園中・高等学校教諭・大下明）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

☆池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻3500円、第2巻4200円、第3巻5400円、第5巻4500円。第4巻（現代編）は編纂中。

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●出口彰水彩画展	～11/1(月)
●河合絵一油絵展	11/3(祝)～8(月)
●井上亜衛織絵展「涙ととときめき」	11/10(水)～15(月)
●MH工房10周年記念ガラスアート展（畑田美智子）	11/17(水)～22(月)
●イタリア時間Ⅱ～ペールトーン・monotono～（波江野陽子・銅版画）	11/24(水)～29(月)

【ギャルリVEGA】

●糸で綴る色彩と水絵の彩る世界－石田澄江・鉄弥二人展－	～11/1(月)
●江原和足展「北摂春秋Ⅲ」	11/3(祝)～8(月)
●加藤洋子刺繍教室展“華ししゅう会”	11/10(水)～15(月)
●バウエルンマーレライ（中田久子・トールペイント）	11/17(水)～22(月)
●手作りハウス（アクセサリー・布バック・着物地服）	11/24(水)～29(月)
●近藤雄士のつくる「木の家具展」	11/24(水)～29(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより倏

明治の医療

脚気（かっけ）にご用心

人間って、ホンマ昔からいろんな病気に悩まされてきましたよね。明治政府ができたからって、また文明開化になったからって、病気が簡単に治るようになったわけじゃありません。実際、明治の初めごろ、今の池田市の地域ではみんなどうしていたんでしょう。

9月号で池田にあった料亭の「めん茂」が「脚気病転地療養所」の看板をあげた話をしましたね。明治12（1879）年7月のことです。このころ、都会では脚気が大はやりでした。白米の偏食でビタミンB1が不足していたんですね。

新町の博愛病院（大正ごろ、弓場勲さん提供）

えっ？　脚気ってなにも大した病気じゃないんじゃないですかって。だめですよ、そんなこと言ってちゃあ。脚気はビタミンB1の不足で手足がしびれたりむくんだりして、ひどくなると歩けなくなります。中でも心臓の機能が低下したら死んでしまうんです。当時はこれを脚気衝心といって大変恐れました。大勢の若者を集めていた軍隊ではホンマにこれに悩まされたんです。

池田で療養

ところが、当時、脚気の病因はさっぱり分かっていなかったんですね。ただ、転地がいいっていうんで、池田、箕面、有馬に都会から大勢の人が療養に来ました。料亭のめん茂はそれに目を付けたんですね。

大阪のお医者さんでは西区北堀江下通の東大太郎や東区北浜の高田節造、東区瓦町の菅煥齊。池田村では八倉半二・永井良意・三好正晴。古江村では森万次。熊野田村（豊中市）では田中静軒、そして桜塚村（同前）では石黒全情。全部で9人の名前を書き上げて「診察を依頼している」と宣伝しています。ちなみに1日分の賄い料は上等で25銭、中等で16銭、下等で13銭、それに医員薬価として同じく1日につき、上等は12銭、中等は9銭、下等は7銭となっています。お医者さんは診療費ではなくて、薬価となっているのも、医薬分業ができていない時代を感じますね。その薬価にも上・中・下の区別があったというのも驚きです。どっちにしても経済的に余裕のある人だけが療養に来られたんでしょう。

療法さまざま

さて、この中に池田・古江・熊野田・桜塚村などのお医者さんの名前が出てきます。今度発行した『新修池田市史』第三巻にも、永井良意とか三好正晴、あるいは森万次などの名前と業績が紹介されています。

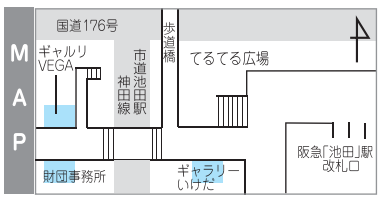
今の池田市域の人々もこの人たちには随分と診察してもらい、薬ももらったんでしょう。ただ、実際どれぐらいの人が、またどれぐらいお医者さんにかかっていたんでしょうかね。めん茂の例で分かるように、お金もかかりますから、診てもらうというのもなかなか大変なことじゃあなかったかと想像しますね。

『新修池田市史』第3巻にはこのころの人たちが頼りにした病気の治し方を紹介した冊子のことも紹介されています。いわゆる民間療法、素人療法ですね。何しろ池田の町にはその日暮らしの貧しい人がいっぱい住んでいましたから、たいへん重宝されたんだと思いますよ。医療の社会化はまだまだ先の話でした。

（市史編纂委員会副委員長・小田康徳）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- ●永嶋和子水彩画展「心に映るがまゝに」　12/1(水)～6(月)
- ●三浦貴士洋画展　12/8(水)～13(月)
- ●中山光弘水彩画展“みずえの彩り”　12/15(水)～20(月)

【ギャルリVEGA】

- ●第3回仲尾政伸絵画展　12/1(水)～6(月)
- ●池田市美術協会会員VEGA賞受賞者展　12/9(木)～13(月)
- ●大阪青山大学・大阪青山短期大学「アソビと造形」展　12/15(水)～20(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日、12/21日(火)～1/4(火)
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂だより倏

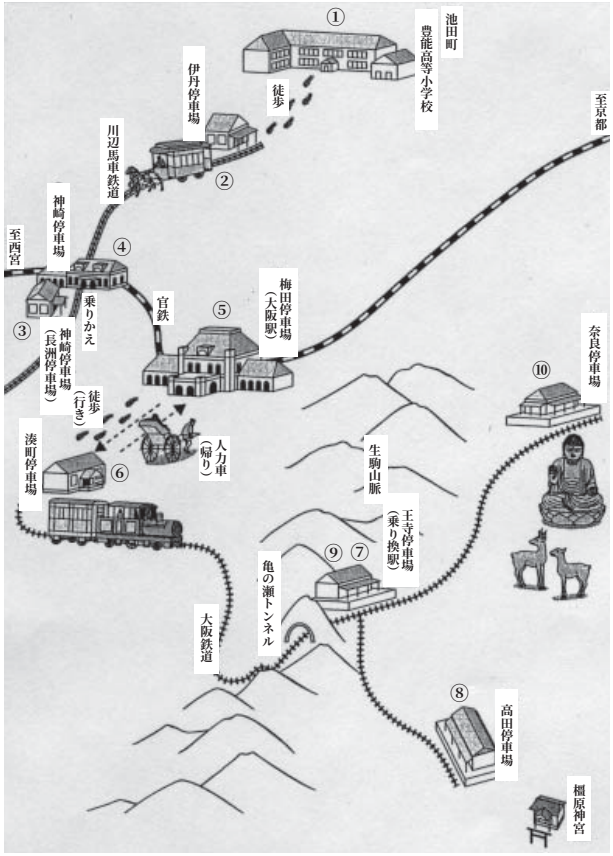
明治の修学旅行

最初の修学旅行

学校生活の中で思い出に残る行事はたくさんありますが、修学旅行もそのうちの一つではないでしょうか。私も友人たちと夜明けまでしたガールズトーク、今でも覚えています。

日本における修学旅行は明治19（1886）年に東京高等師範（現筑波大）の生徒が千葉県の房総半島へ11日間の「長途遠足」をしたことに始まるといわれています。

池田では、明治24年に豊能高等小学校（現池田小）の児童が京都滋賀方面に行ったのが、現在分かっている記録では一番古いものです。どんな旅行であったかは、残念ながら何も分かっていません。ただ幸いなことに、翌年の旅行については引率の先生の記録が残されていました。今回はそこから約120年前の修学旅行の様子をちょっぴりご紹介します。



一泊二日で奈良へ

旅程は明治25年5月3～4日で、男女児童60人が参加しました。旅行の目的は奈良博覧会見学と神武御陵へ行くことでした。

1日目は朝6時に出発し、絵図のように①②…の行程で⑧の高田停車場まで行き、徒歩で神武御陵、橿原神宮を回り、再び汽車で⑨を経由して⑩の奈良停車場に到着。東大寺近くの旅館で宿泊しています。

2日目は朝7時に出発して、博覧会の見学のほか、さまざまな寺社を回っています。記録では春日大社の鹿のおじぎの不思議さや大仏の鼻くぐりなどの感想を素朴に述べています。

昼食後、⑩の奈良停車場から汽車で⑥の湊町停車場（現JR難波駅）に戻り、人力車で⑤の梅田駅に出て、④を経由して午後6時に学校に帰り着き旅を終えています。

「交通革命」と旅

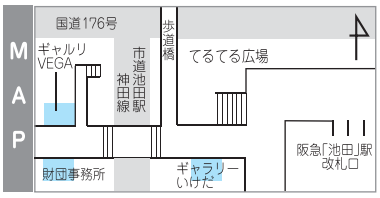
この旅行では人力車のほか、前年に開通した馬が車両を引く川辺馬車鉄道や、同年2月に全線開通したばかりの大阪鉄道の汽車など、さまざまな乗り物が使われています。

明治初期は関所など従来の交通制限が撤廃され、こうした新しい乗り物が出現した日本史上最大の「交通革命」が起きたともいえる時代でした。人びとは国内を自由に、遠くへも短い時間で行き来できるようになりました。さらに明治20年代以降に、長距離路線が整備されると、鉄道による旅に出掛けるようになりました。それは、お伊勢参りのような伝統的な参宮ルートのある旅でさえ例外ではありませんでした。豊能高等小学校の修学旅行はまさにそのような鉄道旅行時代の到来を先取りした、当時としては最先端スタイルの学校行事であったといえます。

（『新修池田市史』第3巻分担執筆・関根則子）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- ●久保義浩絹絵の世界展　1/5(水)～10(祝)
- ●永島庸・力也廃材家具展　1/12(水)～17(月)
- ●天野朝春・塩釜宇城染二人展　1/19(水)～24(月)
- ●櫻井聡絵画展　1/26(水)～31(月)

【ギャルリVEGA】

- ●色いろ絵画展（安芸絵画教室）　1/5(水)～10(祝)
- ●マザーグースキルトハウス作品展　1/12(水)～17(月)
- ●第12回京都きもの絵師とその仲間達展　1/19(水)～24(月)
- ●カルチャーVEGA教室展　1/26(水)～31(月)

【開館時間】10:00～19:00（「色いろ絵画展」「カルチャーVEGA教室展」は18:00まで、最終日は16:00まで）
【休館日】～1/4(火)、火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより㊤

山の恵み

五月山を基点に北摂の山々を背負う池田地域であるから、薪や炭、竹、山菜、キノコ、木の実など、昔から豊かな「山の恵み」が日々の暮らしを彩ってきました。今回はちょっとそのあたりの話をしようと思います。

「シバシイ」

その一つが柴刈り「シバシイ」です。池田では山へ行って柴や粗朶・下草を刈りとることをそう呼びました。ガスや電気が普及する前はご飯炊きや風呂のたき付けには欠かせず、かつては山でとってきました。山を持たなくても地域の共有林であれば刈りとりは自由で、明治45（1912）年の細河村東山の「村中申合書」からは、落ち葉や枯れ枝拾いなら、誰でも、どこでも認められていたことがうかがえます（東山村文書）。

『新修池田市史』第5巻の民俗編にはそうした記憶がさまざまに語られます。「味噌と割り木があったら生活できる」といわれたのに、小学校の校舎を新築するときに村山を売ったため、その後は柴の確保に苦労しました（旧秦野村下渋谷）。村持ちの山は昔あったが、明治のころに売ってしまったので、止々呂美や伏尾まで大八車を引いてシバシイにいっていました（旧北豊島村石橋）。時代とともにさまざまな理由で共有林が減っていったために、たき付けを手に入れるのがだんだん大変になったのでした。

マツタケ狩り

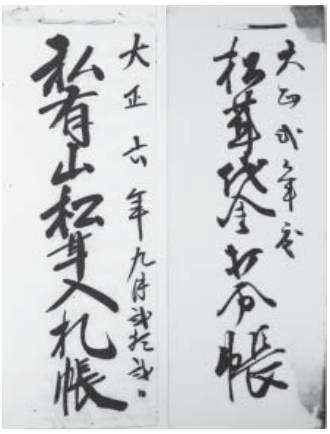
もう一つは、「山のダイヤ」マツタケの話です。昨年は珍しく豊作だったようですが、それでもなかなか口にできません。秋の代表的な味覚と珍重されたのは昔も同じでした。大正10（1921）年刊行の『池田町便覧』に同年に細河村で1770貫（約6637・5キログラム）採れ、阪急「池田」駅から2436貫が移出されたとあり、今では考えられないくらいたくさん採れたようです。

地域住民の口腹を満たすだけでなく、共有林でのマツタケ採取は町村や大字の収入になりました。とりわけ五月山は阪急の沿線にあり大阪から近く、秋の好日はマツタケ狩りの客でにぎわいました。昭和2（1927）年の9月、池田町（当時）が同山のマツタケの権利を競争入札したときは秦野村の住民が1285円で落札しています。10月になるとマツタケ狩りが始まり、駅から案内人が先導して五月山へ、かしわ（鶏肉）とマツタケのすき焼きやマツタケご飯に舌つづみを打って、一人2円の阪急沿線公定値段だったそうです（『阪神毎朝新聞』）。

秦野村の畑山でもマツタケ狩りをしていました。日曜日になると子どもが旗を持って石橋駅で客を迎え、家で枝豆と茶を出して休憩させた後、履物をわらぞうりに替えさせ山へ案内しました。場所は現在のゴルフ場の辺りで、見上げると真っ白に見えるほどたくさん生えていたといいます（『新修池田市史』第5巻）。

しかし、五月山ではしだいに採れなくなり、畑山の方もゴルフ場に変わってしまい、池田でのマツタケ狩りは昔語りになりました。里山のふもとで過ごす日々の暮らしを大事にしたいものです。

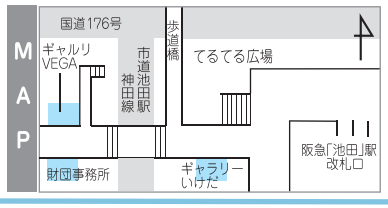
（『新修池田市史』第3巻分担執筆・植木佳子）



▶大正時代のマツタケ山入札帳簿（岸本晃氏提供）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●水野保雄作品展（絵画）	2/2(水)～7(月)
●たちおか帽子第2回墨絵展	2/9(水)～14(月)
●池田ゆかりの作家展－ギャルリVEGA所蔵作品展－	2/16(水)～21(月)
●山田郁子展（絵画）	2/23(水)～28(月)

【ギャルリVEGA】

●夢工房半蔵作品展	2/2(水)～7(月)
●彩の会展（油彩）	2/2(水)～7(月)
●「コケラヲトシ」橋本和哉×ハラチグサニ人展（現代アート）	2/9(水)～14(月)
●梅花女子大学短期大学部“生活の美アート展”	2/16(水)～21(月)
●第5回おりーな作品展（染・織）	2/23(水)～28(月)
●オユンナ心象風景展	2/23(水)～28(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより倒

興亜時習社

池田城跡に開校

五月山南麓高台に築かれた池田城は戦国末期の落城後、長い間草木に覆われたままでした。その城跡に昭和14（1939）年4月、突然、興亜時習社が開設されました。

興亜時習社というのは満州の民間会社でリーダーとなる人材を養成する機関で、半官半民の大阪興亜会によってつくられました。校長は元満州国初代総務長官の駒井徳三。同年3月16日付『大阪朝日新聞』に「興亜時習社は池田城址に決まる」という大きな見出しで報道されました。ただし4月の開校時には校舎が完成せず、近くの大広寺や陽春寺を仮の校舎としてスタートしました。

昭和14年10月、正門を後にする卒業生
（蘭交会編『麦秋駒井徳三』より転載）

学費や食・住は無料

入学資格は大学または専門学校を卒業した満26歳未満の男子。そして、職を持つ者というハイレベルな条件でした。定員は30人で修業年限は半年。全員校舎に隣接した寄宿舎に入り、授業料・食費・衣服などすべて無料でした。新入生の選抜は会社からの推薦によって決めていたようです。

校舎は8月5日に完成、城跡の空堀に沿って南北に1棟（平屋建・一部2階建）、東西に講堂・炊事場（平屋建）と寄宿舎（2階建）の2棟がありました。建坪は270坪余りでしたが、敷地は3000坪あり、さらに城跡周辺に1000坪の農場を持つ、広大な学校（塾）が池田市に誕生しました。

授業科目は「精神訓話」「支那語」「満支事情」「日本事情」「貿易実務」、そして「農作業」でした。午前中は各授業、午後は農作業で、週39時間の内、農作業は15時間もありました。午前6時起床、消灯の午後9時30分まで、日課表によって厳しい心身の鍛錬が行われました。

わずか3年で休校

入学者は一流企業の青年たちであり、第1期生の卒業式は同年10月28日、新築落成記念を兼ねた講堂で行われました。前日の『大阪朝日新聞』には、「鍛へ上げて羽搏く」と題して、卒業生15人全員の名前を載せ、その内の5人の顔写真と抱負を大きく紹介しています。卒業後、すぐ満州行きになった人は二人で、あとの人は元の会社に戻り、要職に就いたようです。

興亜時習社は昭和17年3月に休校になりましたが、3年間の卒業生は90人。その内訳は日本人59人、中国人28人、韓国人3人でした。日本人卒業生の出身地は北は青森県から南は鹿児島県まで全国に及び、中でも大阪府は11人と最多でした。

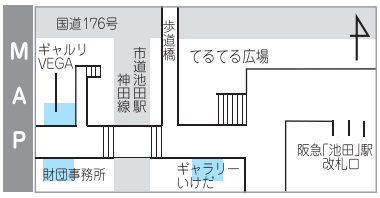
また、興亜時習社の兄弟校として、宝塚の逆瀬川の近くに、康徳学院がありました。駒井徳三が塾長として自ら経営し、対象は中等学校卒業生、定員は毎年10人程度、修業年限は3年、全員寄宿舎に入り、費用はすべて無料でした。開校は昭和10年で、19年まで続きました。

興亜自習社がなぜ池田市に開設されたのか、そして閉校の理由、さらに教育内容の実態などは不明です。卒業生や資料などを捜していますので、ご存じの方は生涯学習推進課にご連絡ください。

（『新修池田市史』第3巻分担執筆・室田卓雄）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●鎌谷卓之個展（絵画）	3/2(水)～7(月)
●丸山好子水彩画展	3/9(水)～14(月)
●的場二子水彩画展	3/16(水)～21(祝)
●第10回滝井孝舟展－かな美の世界－	3/23(水)～28(月)
●藤原晶子ボタニカルアート展	3/30(水)～4/4(月)

【ギャルリVEGA】

●大阪大学美術部春部展	3/2(水)～7(月)
●旅のスケッチと俳画の夫婦展（前川裕彦・前川美子）	3/9(水)～14(月)
●桐原將臣洋画展	3/16(水)～21(祝)
●第10回深山会書展	3/23(水)～28(月)
●手仕事の仲間展（大野博史・大野久美子・藤沢裕子）	3/30(水)～4/4(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより㉑

池田で発行された女性雑誌

近代の池田は「出版のまち」といえるほど、新聞・雑誌・単行本が意欲的に発行されていました。今回はその中から女性雑誌を3誌ご紹介しましょう。

『婦女の友』

平成18年の春のこと、市内のある家が改築のため整理していると、和装の女性を描いた日本画を表紙にした古い雑誌が見つかりました。大正10（1921）年11月発行の『婦女の友』でした。発行所は婦女之友社で、林口町（現栄本町）の料亭・栗の家にあり、近々編集部を北新町（現新町）に移すとも書いてあります。

『婦女の友』（歴史民俗資料館蔵）

内容は「自由結婚の可否」を特集として、短編小説や連載小説に加え、翻訳「希臘神話」から「関西婦人の印象」「アルコー婦人会の記」「頭髪の手入」「子供、老人向きの西洋料理」など少々趣きは変わっても、今の女性の関心とあまり変わりません。

読者は全国を対象としていたようですが、なぜ池田で発行されたのか、どんな人がどのように編集したのかなど、まだよく分かっていません。

『婦女世界』

驚いたことに同じころ池田では『婦女世界』という雑誌も発行されていました。内田町に置かれた婦女世界社は後に荒木町（いずれも現大和町辺り）へ、その後大阪へ移りますが、大正7年2月から12年5月まで池田にありました。

女性記者も多くいて、精力的に取材をし、記事を書いていました。内容は育児・料理・衣服・園芸・病気などの家庭生活、女性の生き方から政治について、有名人の恋愛や結婚・離婚など幅広く、こちらも今の雑誌と似ています。また、池田の葛野壮一郎（建築家）・高原操（ジャーナリスト）・小林一三（阪急電鉄創始者）などが執筆し、木谷千種が表紙絵を描いたこともありました。

『婦女の友』や『婦女世界』は今の雑誌やインターネットのように、当時の池田の女性にとって大きな情報源であり楽しみであったことでしょう。

『愛と美』も

さらに、室町に住んで「家なき幼稚園（現室町幼稚園）」を運営していた橋詰良一が児童の神性と女性の純情を伝え合うために、昭和2（1927）年1月から『愛と美』を発行しました。橋詰が亡くなる9年9月まで継続されます。毎号、各地の家なき幼稚園の保母たちが、幼児たちの言葉や動きに心を揺さぶられた体験を伝え合いました。また、邦楽・古典芸能・洋楽・美術など、芸術関係の記事も豊かでした。池田の画家・古家新や狩野千彩が小説などの挿絵を描いたこともあります。

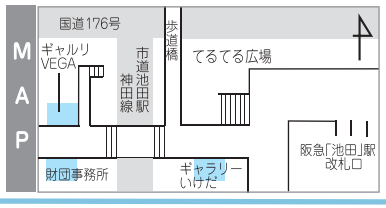
家なき幼稚園の実践は全国的にも貴重なものでしたから、教育家や芸術家が注目し、たびたび寄稿しています。そして、池田の人々や文化活動もたくさん紹介され、町政に対する意見も遠慮なく書かれています。当時の池田が写し出された貴重な資料と言えるでしょう。

以上の3誌は原本がわずかしか見つかっていません。もっと発見されて、多くの市民の目に触れるようになることが待ち望まれます。

市史編纂委員会専門委員・石川遼子

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●藤原晶子ボタニカルアート展	～4/4(月)
●第52回池田市美術展（第３会場）	4/10(日)～16(土)
●第２回白木肇個展（風景水彩画）	4/20(水)～25(月)
●長井正義・森邦彦二人展（絵画）	4/27(水)～5/2(月)

【ギャルリVEGA】

●手仕事の仲間展（大野博史・大野久美子・藤沢裕子・有原和代）	～4/4(月)
●第52回池田市美術展（第２会場）	4/10(日)～16(土)
●近藤雄士「木の家具展」	4/20(水)～25(月)
●三人展（上田保隆・宮田保史・三上利秋）	4/27(水)～5/2(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで、池田市美術展は10：00～18：00で最終日は15：00まで）
【休館日】火曜日（12日は除く）
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉５万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝７・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の６日間
【申し込み】使用希望月の１年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）